

鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）
に基づく取り組み評価概要報告書
【令和元年度評価結果】

〈目次〉

1 評価の目的	P 1
2 評価の方法	P 1
3 評価結果の概要	P 1
(1) 実現方策の評価結果	P 1～P 2
(2) 投資・財源計画評価総括表	P 3
4 総括	P 3

令和2年10月
鹿屋市上下水道部
業務課・工務課

1 評価の目的

平成30年度に策定した鹿屋市水道事業の中長期的な経営の基本計画である「**鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）**」の実施状況の評価を行い、その結果を予算編成や事業計画に反映させることにより、継続的な経営改善を図る。

2 評価の方法

上下水道部の業務課・工務課による自己評価として、担当係が「実現方策の進捗度」及び「投資・財政計画の健全度」について**1次評価**を行った後、次に係長級以上の職員で構成する「鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）内部評価会議」が、1次評価の内容が適当であるかを総合的な視点から判断する**2次評価**を行い、最終的な評価を決定するものである。

(1) 実現方策の評価（75項目）

取り組み内容から現状を分析し、その**進捗状況**を「完了」、「A：順調」、「B：概ね順調」、「C：遅れている」、「D：その他」の5段階に評価する。

その結果を受けて、**今後の取り組みの方向性**を「1：拡充」、「2：維持」、「3：改善」、「4：縮小」、「5：廃止」で示す。

(2) 投資・財政計画の評価（収益的収支・資本的収支・補てん財源・資金残高等）

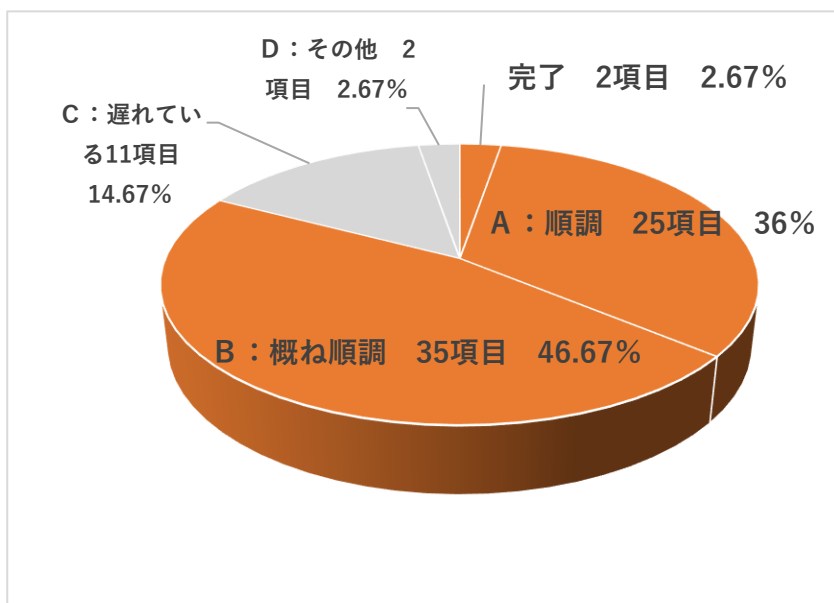
実績値と計画値を比較し、差が生じている場合にはその原因を分析する。

3 評価結果の概要

(1) 実現方策の評価結果（75項目）

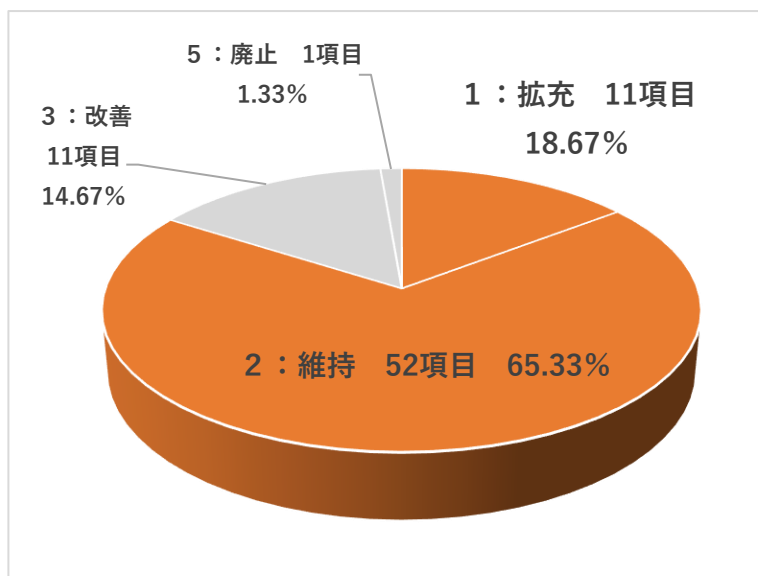
基本目標	施策方針	評価項目数
持続	組織体制の強化、健全経営の確保、官民連携の推進など	30
安全	良質な水源の確保、水源水質の保全、浄水施設の整備など	15
強靱	適切な水道施設の更新、管路の耐震化、応急給水の強化など	30

1) 「進捗状況」の評価結果（基本目標ごと）



【完了】	2項目	2.67%
【A：順調】	25項目	33.33%
【B：概ね順調】	35項目	46.67%
【C：遅れている】	11項目	14.67%
【D：その他】	2項目	2.67%
計	75項目	100.00%

2) 「今後の方向性」の評価結果（基本目標ごと）



【1：拡充】	11項目	14.67%
【2：維持】	52項目	69.33%
【3：改善】	11項目	14.67%
【4：縮小】	0項目	0.00%
【5：廃止】	1項目	1.33%
計	75項目	100.00%

3) 主な各種指標の進捗状況

番号	各種指標	2019年度実績	2028年度目標	進捗率
1	営業収支比率	119.80%	119.40%	100.34%
2	経常収支比率	121.70%	121.10%	100.50%
3	料金回収率	116.00%	116.70%	99.40%
4	有収率	81.18%	84.40%	96.18%
5	管路の更新率	0.32%	0.74%	43.24%
6	施設利用率	77.77%	74.40%	※1
7	給水人口一人当たりの配水量（強）	363 ℓ	325 ℓ	111.69%
8	配水池の耐震化率	55.20%	61.00%	90.49%
9	基幹管路の耐震適合率	61.30%	68.40%	89.62%

※1 厚生労働省は予備能力確保のため、施設利用率は75%以下とすることを推奨している。

4) 主なもの

具体的施策	今後の方向性
①災害時における給水体制等の強化	応急給水設備や給水車の導入
②若手職員への技術継承	施設の操作及びメンテナンスマニュアルの策定
③業務マニュアルの作成	業務マニュアルの見直し
④官民連携の活用の調査・検討	包括業務委託の方向性・効果等の再検討
⑤施設台帳の整備	業務委託による水道施設台帳の整備
⑥水源開発の実施	「施設規模適正化計画」の検討結果を踏まえた行程表の修正
⑦アセットマネジメントに基づく計画的更新	
⑧適正な施設規模への更新	
⑨硝酸態窒素等に対応した高度浄水処理等の検討	高度浄水処理施設整備基本計画の策定
⑩有収率の向上	漏水調査区域の見直し、管・弁の状況調査の毎年度実施
⑪危機管理対策マニュアルの見直し、BCPの策定	危機管理対策マニュアル及びBCPの見直し

(2) 投資・財政計画の評価結果（令和元年度決算）

1) 収益的収支

- ① **収入**については、**給水収益**が新型コロナウイルス感染症に伴う使用量の増など対計画比で約1,500万円の増、工事に伴う負担金及び旧輝北簡易水道事業統合に伴う**繰入金**の増など対計画比で約2,900万円の増、合計の対計画比で約4,400万円の増となる。
- ② **支出**については、職員数の減などにより**人件費**が対計画比で約2,100万円の減であったものの、柳浄水場等業務管理の委託開始による**委託料**の増など対計画比で約2,500万円の増、水源地や配水池等のポンプの経年劣化による**修繕費**の増など対計画比で約2,600万円の増があったことなどから、合計の対計画比で約3,900万円の増となる。
- ③ **当年度純利益**については、①と②の収支の結果、対計画比で約500万円の増となる。

2) 資本的収支

- ① **収入**については、他会計出資補助金が旧輝北簡易水道事業統合に伴う**繰入金**と、**工事負担金**の増など対計画比で約2,100万円の増となる。
- ② **支出**については、**工事請負費**が水源開発計画に係る見直しなどにより、対計画比で約4,800万円の減となり、合計の対計画比で約2,700万円の減となる。
- ③ **不足額**については、①と②の収支の結果、対計画比で約4,800万円の減となり、内部留保資金により補てんする。

3) 評価結果

収支のバランスはとれており、最終的に収益的収支及び資本的収支が計画より好転したことなどを受けて、資金残高は対計画比で約1億3,700万円の増、事業収益に対する資金残高率は対計画比で3.8ポイント増となり、概ね計画どおりの財政運営が図られている。今後も引き続き、計画的な投資が必要である。

4 総括

「進捗状況」の評価では、「A：順調」と「B：概ね順調」の合計割合が82.67%を占めることなどから、全体を通しての評価としては「概ね計画どおり進んでいる」と判断する。

また、「今後の方向性」の評価では、「1：拡充」と「2：維持」の合計割合が84.00%を占めていることなどから、今後は基本的に現在の取り組みを継続しつつ、一部拡充や改善を検討しながら、予算編成に反映させていく必要がある。